



令和4年度CO-SHA相談窓口実績一覧

目次

保育所を含む小中学校の一体的な整備について-----	2
長寿命化改修における児童の参画による対話型設計プロセスについて-----	3
屋内運動場の空調設置に係る断熱化改修について-----	4
学校と公民館が入った複合施設での協働のルール・ガイドラインづくりについて-----	5
中学校改築に向けた配置計画について-----	6

相談件名

保育所を含む小中学校の一体的な整備について

相談者

教育委員会事務局

相談内容

小学校・中学校及び保育所を含めた一体的な整備を模索しております。つきましては、事業推進の具体的な方策に係る情報や先進的な取組をされている地域の情報提供をいただきたいと考えております。現時点では、動線等を含めて施設の基本構想をこれから検討する段階です。すでにある施設で、参考になるものがございましたら情報提供をいただきたいという思いです。また、海外の情報もございましたら、公開しておられる情報で結構ですので、紹介いただければ幸いです。まだ情報収集の段階ですので、引き続き、参考事例がございましたら紹介ください。よろしくお願ひいたします。

対応概要

アドバイザーからの事例を共有いただき、事務局から回答を送付

回答内容

事務局	<p>東京の品川学園も敷地内に「北品川すこやか園」という幼保一体型の園を併設しています。</p> <p>▼論文(保育園に関しての言及はありませんが...) https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/16/32/16_32_285/_pdf</p> <p>▼併設の幼保一体施設紹介ページ https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/shinagawaphotonews/shinagawaphotonews-2011/hpg000014153.html</p> <p>海外の事例に関して、URLで恐縮ですがお知らせいたします。</p> <p>Opinmaki https://finnisharchitecture.fi/opinmaki-school-and-learning-centre/</p> <p>Saunalahti School https://www.archdaily.com/406513/saunalahti-school-verstas-architects</p> <p>また日本の事例ですがこども園含む小中学校の計画なので、「大熊町立 学び舎 ゆめの森」もご参照ください。</p> <p>https://manabiya-yumenomori.ed.jp/</p>
-----	--

相談件名

長寿命化改修における児童の参画による対話型設計プロセスについて

相談者

教育委員会学校教育課

相談内容

現在、中学校の長寿命化改修設計を進めており、設計ワークショップを通じて中学生に新校舎に対する意見や改善点を聞きながら、設計を進めています。

来年度以降に小学校の長寿命化改修設計を予定していますが、中学生に比べて、小学生は設計に対する理解やイメージの具体化が難しいと考えられます。児童との設計協働を効果的に行うための方法について、ご教示いただけますでしょうか。

お忙しいところ恐縮ですが、よろしくお願ひいたします。

対応概要

アドバイザーの先生からの回答共有

回答内容

A先生

長寿命化改修に限らず、学習環境を子どもたちと協働でつくっていこうとする姿勢に、敬意を表します。是非ともどんどん取り組んでいただきたいと思います。その上で、ご心配されている児童の参画方法についてですが、子どもたちの力は大人が思う以上だと私は思っています。しかし、いきなり「設計」や「空間」に対する意見というと、難しく漠然とした意見になると思うので、私だったらどうするだろう?と考えた意見を以下に書きます。参考になさってみて下さい。

A案)具体的なシーンを提示して、どんな風にそれをしたいか、どんな場所でやりたいかをイメージしてもらう。例えば、「総合の時間の調べ学習のときにあつたらいいな、と思う場所、欲しい家具を考えてみよう。それがあるとどんな風にいいのか」など。

B案)「こんな場所があつたら、こんなことしたい」→居場所や落ち着く場所として、子どもたちが何を求めているか、また、どんな学び方をしたいと思っているかを探る。定型自由記述のような聴き方で聞いてみるのもあります。

C案)「学校でこんなことしたい」というアイディアを出してもらうことで、それを深掘りしていく。→「なぜそれがしたいのか(理由)」「それをするためににはどんな場所があつたらいいか(具現化)」

基本的に、今ないもの、新しいモノを生み出す際に、アンケートのような聴き方や、意見出しをさせるワークショップでは、大人でも難しいです。子どもたちの中にどんなニーズがあるのかを聞き出していくことで、それを具現化(空間化)していくという流れを作つてみるといいのではないでしょうか。

相談件名

屋内運動場の空調設置に係る断熱化改修について

相談者

教育委員会学校教育課

相談内容

築10年の学校体育館に空調(エアコン)を導入する計画があります。

文部科学省の交付金事業では、「当該建物に断熱性があることを要件とし、断熱性のない建物については、併せて断熱性確保のための工事を実施するものとする」と定められています。

屋内運動場は天井高と床面積が大きいため、どこまでの断熱化工事を実施すれば「断熱性確保」と認められるのか判断に苦慮しています。

つきましては、設計・計算例があればご教示いただきたく存じます。

対応概要

事務局からの回答共有

回答内容

事務局	まずは、既存建物の断熱性能の有無を設計図書等でご判断いただき、既存建物の状況に応じて経済性に配慮しつつ効果的な断熱化ができるよう、必要に応じて専門家等に相談しつつ、断熱性確保の方法を検討いただければと思います。 断熱性確保の具体的な方法について判断に迷われる場合は文部科学省施設助成課技術係へご相談ください。
-----	---

相談件名

学校と公民館が入った複合施設での協働のルール・ガイドラインづくりについて

相談者

一般社団法人

相談内容

学校と公民館との複合施設に移転予定で、翌月から職員室も一ヶ所の空間にまとめられた複合施設での学校運営がスタートします。今後、両者が協働しやすいような職員室の使い方や、複合施設全体の運営のガイドラインを作成を予定しています。他の自治体での事例や協働しやすい運用ルールの紹介、ガイドラインづくりの方法・進め方などについてアドバイスをいただけないか。

対応概要

アドバイザーの先生からの回答共有

回答内容

A先生

ある小学校で、職員室のレイアウトを一新するためのワークショップを先生方と実施しました。その際、以前我々が行った調査結果を見て、先生方が「職員室は完全フリーアドレスにしてしまっていいじゃないか」と言い出しました。つまり、日中職員室には人がいないので、もったいない、という発想に至ったのです。

また、もう一つ話題になったのが固定電話の設置位置についてでした。ひっきりなしに電話が鳴るので、現在は各学年の島に1台ずつ固定電話があるのですが、日中は副校長先生と数名の職員しか職員室にいません。そのため、台数を減らし、その代わり静かな場所でプライベートや情報保護が必要な会話ができるブースを設けよう、という案が出ていました。

さらに、全ての先生方が望まれたのは、コーヒーなどを飲みながら雑談ができる空間でした。しかし、これらの内容は、職員室だからこそ新鮮な案ですが、他のオフィスでは当たり前の内容だということにも気づきました。そのくらい職員室が特殊な環境だったということです。

そういうわけで、先生方と公共施設の職員の方々が共に理想の働く環境をつくるというプロセスはとても面白いと思います。例えば、合同で民間のオフィスやオフィス家具メーカーのショールーム見学をすることからスタートしたりすると、前向きでワクワクした気持ちで、理想の働く環境について議論できるのではないかでしょうか。

相談件名

中学校改築に向けた配置計画について

相談者

教育委員会の校舎等改築委員会

相談内容

中学校の改築に向けた整備の検討において、校舎と体育館を渡り廊下で繋ぐ今までの一般的な校舎のつくりか、校舎と体育館を一体化したつくりとするかについて、事業費及び教育的メリット・デメリットをご教授願いたい。

中学校校舎等改築検討委員会を立ち上げ、今年度より改築に向けた基本設計業務を進めており、現在は配置計画を検討委員会へ提案しようとしている状況。

対応概要

アドバイザーの先生方からの回答共有

回答内容

A先生	校舎と体育館を一体化した場合、建設コストという視点では、外壁量が減ったり、渡り廊下そのものが不要となる、などはあるかと思いますが、逆に面積区画が発生する場合や、体育館の音や振動(ボールのバウンドなどからくる床振動や、体育や部活動でかなり大きな声を出して活動する、集会でマイクを使って話をするなど)に対する配慮など、様々な検討や配慮が必要になってくるかと思いますので一概にどちらが安いのか、という単純な比較は難しいかと思います。しかし、一体化した場合は体育館が中庭や広場的のような存在となり、休み時間に気軽に使いやすかったり、児童生徒にとっての日常的な活動の場として使用できる可能性が大きく広がり、教育的なメリットはかなり大きいのではないかと思います。我々の事務所の実例としては、『千葉市立打瀬小学校』『千葉市立美浜打瀬小学校』『流山おおたかの森小・中学校』『立川第一小学校・柴崎学習館(←これは、学習館棟の中に体育館を組み込んでいます)』が一体型になります。
B先生	体育館は、他の特別教室ゾーン等と同様に、児童・生徒にとっての大切な学習・生活活動の場です。また、様々な行事・催しの場としても大切です。なるべく、身近な位置にあって日常的に活発な利用ができるように計画をすることが大切だと考えます。児童生徒の意識の中にも、常にその存在が自然に意識できることも大切です。 校舎と一体的に整備する場合に、体育館での活動音や振動が他の学習スペースの妨げにならないような技術的な配慮が必要なことは、A先生のご指摘の通りですが、解決可能な課題だと考えます。なお、体育館は地域利用に供されることが多く、このことはコミュニティ・スクールの観点からも重要です。校舎と一体的に整備する場合でも、地域利用のための専用玄関を設けることなどは重要です。 なお、参考事例ですが、拙著で恐縮ですが、「学校建築ルネサンス」(鹿島出版会2008年)にいくつかの事例を掲載しています。